

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第16回女性参画推進専門委員会の審議概要について

1 開催概要

- (1) 日時 令和2年9月17日(木) 10:00~11:50
 (2) 会場 サンセール盛岡 1階 ダイヤモンド
 (3) 出席者 委員10名(うちリモート参加3名) [3名欠席] (別添名簿のとおり)
 (4) 議事
 ① いわて復興レポート2020について
 ② いわて県民計画(2019~2028)第1期アクションプラン「復興推進プラン」の見直しについて
 ③ 「いわて男女共同参画プラン」(骨子案)について

2 審議結果の概要(主な発言内容)

(1) いわて復興レポート2020について

[菅原委員長]

- 人口減少の要因の一つである**若年女性の減少**について、県全体と沿岸を比較するなど、より丁寧にきめ細かい分析をしていく必要がある。

[山屋委員]

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に比べて、**地方移住への関心が高まっている**。一度岩手を離れた**若い女性が安心して戻ってこられるように、住みよいまちづくりを進めてもらいたい**。

[平賀委員]

- 若年女性の減少の原因の一つに、**東京や仙台との賃金格差**がある。業種ごとに分析し、**賃金を上げる施策**が必要である。
- 東京は家賃が高いなど住みづらい面もあるが、若年層はそれに気づかずに転出してしまうので、**岩手の住みやすさをアピール**するべきである。

[神谷委員]

- 大槌町は人口減のトップランナーだが、**人口減少の全ての原因を震災に求めてはいけない**のではないかと。震災がなかったとしても、10年経てば暮らしは変わるものであり、**震災前と同じ状態にはならない**ことを県民に伝えていく必要がある。

[手塚委員]

- 人口減少の原因が何かを考える上で、**確実性が高いのは「生の声」**である。実際に転出した人や、岩手に戻ってきた人の**生の声を丁寧に聞いて、施策を考える**べきである。

(2) いわて県民計画(2019~2028)第1期アクションプラン「復興推進プラン」の見直しについて

[両川委員]

- 復興推進プランに新たに追加する構成事業には、UターンやIターンの推進など**地方創生の視点を入れて、女性も男性も生きやすいまちづくりを進めてもらいたい**。
- オンラインでのやり取りだけになると**孤立を生むなどのリスク**もあり、あくまでもオンラインは道具として使いながら、**人とのつながりを大事**にしていかなければならない。

[菅原委員長]

- 現行の復興推進プランの柱「**未来のための伝承・発信**」に、**男女共同参画の視点がない**。プランには「防災・復興を支える人づくりを推進します」という取組項目もあるが、その前提として**男女共同参画がある**ので、**男女共同参画の文言も加えてもらいたい**。

(3) 「いわて男女共同参画プラン」(骨子案)について

[手塚委員]

- ・ 震災の時に、性的マイノリティの方が避難所で苦労したという話があり、「東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進」の項目でも、性的マイノリティの方に配慮した記載をしてもらいたい。

[赤坂委員]

- ・ 「女性の健康支援」という表現が伝わりにくいので、「女性のライフサイクルの変化に応じた支援」として、妊娠、出産、子育てといった周産期ケアなど具体的な記載に変更すべきである。

[高橋委員]

- ・ 自分が所属する団体でも男女共同参画に関する研修を実施しているが、参加率が低い。県民への啓発、意識改革が必要であり、諦めずに丁寧に取り組んでももらいたい。

[神谷委員]

- ・ 男女共同参画に係る意識改革には、岩手でコロナ感染者が未確認だった時期に「コロナ第1号が出ても責めない」と知事が出したメッセージのように、強いメッセージを事あるごとに発信していく必要がある。
- ・ 県には、条例により審議会などの女性参画比率を一定の水準以上とするよう義務付けるくらいの踏み込んだ対応をしてもらいたい。

[植田委員]

- ・ 風土や意識の改革には時間がかかるので、まずはワーケーションを活用して、首都圏などから外部人材が入ってきやすい施策を市町村ごとに推進するべきであり、県はそれをサポートしてもらいたい。

[山屋委員]

- ・ 「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」に、岩手県男女共同参画センターも位置付けてもらいたい。沿岸部をはじめ、県民へのセンターの認知度を高める工夫が必要。
- ・ 岩手は、男女共同参画の推進に当たって、復興というもう一つの視点からも切り込むことができ、この専門委員会には重要な意義がある。

[盛合副委員長]

- ・ この専門委員会のような女性だけの場ではなく、男性も出席している会議でも、男女共同参画について議論する機会を設けるべきである。男女共同参画について、男性の理解促進が課題となっている。

[菅原委員長]

- ・ 女性委員が参画する市町村防災会議の割合が目標値を下回っていることは残念である。防災の分野でも女性リーダーの育成が重要である。

**岩手県東日本大震災津波復興委員会
第16回女性参画推進専門委員会出席者名簿**

氏名	職名等	備考
菅原 悦子	岩手大学 名誉教授	委員長
盛合 敏子	岩手県漁協女性部連絡協議会 会長	副委員長
赤坂 栄里子	一般社団法人岩手県歯科医師会 理事	
植田 敦代	特定非営利活動法人w i z 理事	リモート出席
大沢 伸子	岩手県商工会女性部連合会 副会長	欠席
神谷 未生	一般社団法人おらが大槌夢広場 事務局長	リモート出席
高橋 弘美	J A岩手県女性組織協議会 顧問	
手塚 さや香	釜石リージョナルコーディネーター協議会	リモート出席
平賀 圭子	特定非営利活動法人参画プランニング・いわて 理事長	
藤澤 美穂	岩手医科大学教養教育センター 講師	欠席
村松 文代	株式会社IBC岩手放送メディア放送本部 報道局アナウンス部	欠席
山屋 理恵	特定非営利活動法人インクルいわて 理事長	
両川 いずみ	認定特定非営利活動法人いわて子育てネット 副理事長兼事務局長	